

## 身長と肺がん罹患リスクとの関連：宮城県コホート研究

Association between Adult Height and Risk of Lung Cancer Incidence among Japanese Men: The Miyagi Cohort Study

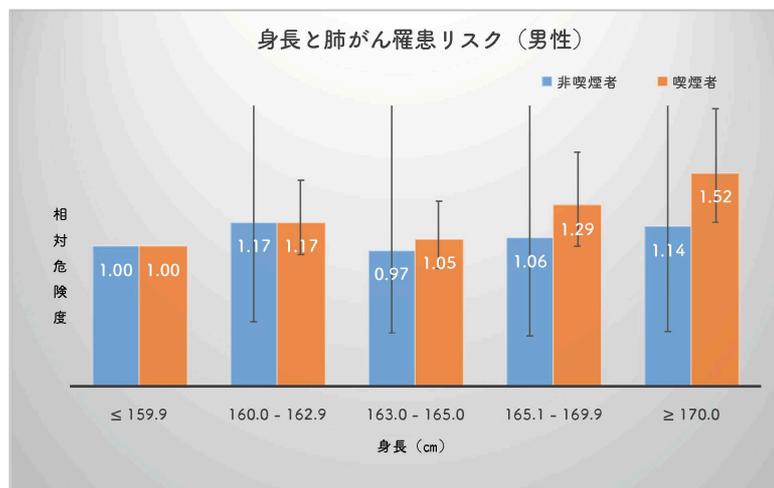
2020年 Tohoku Journal of Experimental Medicine 発表

### 男性喫煙者では、高身長で肺がん罹患リスクが増加する可能性がある

身長は、胎児期や小児期の栄養状態を反映し、成長に関連するホルモンに影響することから、がん罹患に影響する要因の一つとして考えられています。先行研究では、高身長が結腸がん、閉経後乳がん、膵臓がん、卵巣がんのリスク増加に関連することが示唆されていました。しかし、身長と肺がん罹患リスクとの関連は明らかではありませんでした。

本研究は、大規模な前向きコホート研究である宮城県コホート研究のデータを使用して、身長と肺がん罹患リスクとの関連について検討しました。

その結果、男性喫煙者では、高身長が肺がん罹患リスクの増加と有意に関連することを明らかにしました。また、肺がんの組織型別では、高身長は小細胞肺がんのリスク増加と関連することが示唆されました。一方、女性では、高身長で肺がん罹患リスクが増加しましたが、有意な関連ではありませんでした。



### 研究のデータについて

ベースライン調査：1990年6月から8月に宮城県内14町村在住の40-64歳の地域住民に対して生活習慣に関する自己記入式アンケートを配布し、うち47,605名から有効回答を得ました（回答率91.7%）。

追跡調査：ベースライン調査に回答いただいた方のうち、がんの既往があった方、がん診断日が不明であった方、身長、体重の質問への回答に不備があった方を除いた43,743名を対象としました。これらの対象者について、ベースライン調査時から2014年12月31日まで追跡を行い、宮城県がん登録との照合により肺がん罹患患者1,101例（男性798例、女性303例）を確認しました。

### 身長について

自記式調査票の回答に基づいて、男女別に身長（cm）を5分位に分類しました（男性：≤159.9、160.0-162.9、163.0-165.0、165.1-169.9、≥170.0、女性：≤148.0、148.1-150.4、150.5-153.0、153.1-156.9、≥157.0）。本研究では、身長の最小5分位群を基準として他の群の肺がん罹患リスクを比較しました。

---

### 他のリスク要因の影響について

本研究では、身長と肺がん罹患に関連すると考えられている要因の影響を考慮して結果を算出しています。具体的には、年齢、ベースライン時の体重、家族のがん罹患歴、学歴、喫煙、飲酒、歩行時間、野菜摂取量および果物摂取量についてグループ間に偏りが無いように統計学的な処理を行っています。

### 研究の特徴と限界について

本研究の特徴としては①日本の地域住民を対象とした大規模前向きコホート調査の結果であること、②質問票の回答率が高いため内的妥当性が高いことが上げられます。一方、研究の限界としては①家庭や職場での喫煙状況に関する情報がなかったため、受動喫煙の影響を排除できなかったこと、②遺伝的要因、社会経済的要因の影響について検証できなかったことが上げられます。

---